

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 2 年 4 月 24 日現在

機関番号：17701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02621

研究課題名（和文）第二次世界大戦下のドイツにおける前線書籍販売とナチスの文芸政策

研究課題名（英文）German Bookselling at the Front during the Second World War and the Literary Policy of the Nazis

研究代表者

竹岡 健一（Takeoka, Kenichi）

鹿児島大学・法文教育学域法文学系・教授

研究者番号：30216874

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000 円

研究成果の概要（和文）：第二次世界大戦下のドイツにおける前線兵士への本の販売を意味する前線書籍販売とナチスの文芸政策のかかわりを解明するため、関連団体、販売形式、市場形態について詳しく把握した後、刊行された本の包括的な一覧表を作成し、それに基づいて本の内容的な特質の分析を行い、娯楽的著作、古典的名作、および占領地域での軍務や生活に必要な著作の重要性を突きとめ、それによって、第二次世界大戦勃発後、ナチスの文芸政策が破綻していたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、第二次世界大戦下のドイツにおける前線書籍販売とナチスの文芸政策のかかわりを、書籍研究に関する知見を生かし、書籍販売という観点を交えて考察することによって、統制やイデオロギー的支配に基づく独裁政治とみなされるナチズムの既成概念とは異なる一面を明らかにし、ナチズムと文学のかかわりに関する研究に新しい局面を切り拓いた。この成果は、ナチズムに関連する幅広い分野の研究に応用が可能であると同時に、戦時下での出版、書籍販売、読書、文芸・文化政策といった、時代や地域を越えて社会的関心の高い諸問題の論究に資するものである。

研究成果の概要（英文）：This research project examined the relationship between German bookselling at the front during the Second World War and the literary policy of the Nazis. At first, affiliated organizations, forms of selling and types of marketing were minutely traced. Furthermore, a comprehensive list of publications was prepared. The analysis of the characteristics relating to the contents of publications based on this list has clearly shown an importance of books for amusement, classical literature and books which were necessary for military duties and life in the occupied territories. Consequently, it was proven that the literary policy of the Nazis failed after the beginning of the Second World War.

研究分野：ドイツ文学

キーワード：ドイツ文学 ナチズム 文芸政策 文化政策 第二次世界大戦 書籍販売 読書 娯楽文学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

## 1．研究開始当初の背景

ナチズムと文学のかかわりに関する研究は、ナチズム研究の重要な一角を占める。これまでは、作家のナチスへの加担や、作家に対するナチスからの禁止と迫害、およびナチスのプロパガンダとの関係を中心になされてきた。だが、ナチスによる支配やイデオロギー的観点を重視するこれらの研究には、大きく2つの問題点があった。一つは、ナチスのイデオロギーと無関係な作家・作品に十分な目が注がれていないことであり、もう一つは、第二次世界大戦勃発以後のナチスの文芸政策の変化が考慮されていないことである。

本研究の研究代表者は、「ドイツ家庭文庫」と「ドイツにおけるブッククラブ」に関する近年の研究（科学研究費助成事業：基盤研究（C）：2010～2012年度；2013～2015年度）の中で、(1)書籍研究の方法論、(2)ドイツにおける書籍販売と読書の発展、(3)ナチズムと文学のかかわり、(4)第二次世界大戦勃発がドイツの書籍販売と読書に及ぼした影響、などについて理解を深めてきた。

これらの知見を応用・発展させることで、従来の研究の問題点を打破し、ナチズムと文学のかかわりに関する研究を前進させることができると考え、第二次世界大戦下のドイツにおける前線書籍販売とナチスの文芸政策という研究を着想した。このテーマは、ナチス体制下のベストセラーは非イデオロギー的な本であり、ナチスの文芸政策は十分に機能しなかったという意外な事実を明らかにし得るからである。

前線書籍販売（Frontbuchhandel）とは、第二次世界大戦下のドイツで、前線兵士のためになされた本の販売を指す。戦地の兵士にとって、戦闘の合間の読書は数少ない娯楽の一つであり、文芸政策を司る主な政府機関と70以上の出版社が関与し、7500万冊に及ぶ本が供給された。しかし、どのような本がどのように販売されたのか、またナチスのイデオロギーとどのような関係にあったのかなど、詳細は明らかにされていない。

## 2．研究の目的

本研究は、第二次世界大戦下のドイツにおける前線書籍販売とナチスの文芸政策のかかわりを、書籍研究に関する知見を生かし、書籍販売という観点を交えて研究することによって、ナチズムと文学のかかわりの解明に役立つ新たな文学研究のモデルを提示することを目的とした。そして、この目的を達成する上で、申請段階では、次の4つの点を主な研究課題として掲げた。

- (1) 前線書籍販売の関連団体を把握する。
- (2) 前線書籍販売の実施状況を把握する。
- (3) 前線書籍販売で販売された本の内容的特色を把握する。
- (4) (1)～(3)を踏まえ、前線書籍販売とナチスの文芸政策のかかわりを解明する。

## 3．研究の方法

主に文献を研究対象とする本研究においては、一次資料と二次資料の綿密な読解と分析が作業の大部分を占め、次のような手順で進められた。

- (1) 関連文献の調査と収集
- (2) 資料に基づく分析と考察
- (3) 研究成果の総括と公表

これらのうち、本研究を遂行する上で必須の前提となる資料の入手については、2018年2月にドイツ国立図書館（ライプツィヒ市）を訪れ、10日間の現地調査と資料収集を行い、国内では入手不可能な多数の貴重な資料を複写することができた。また、滞在中、ドイツにおける書籍研究の第一人者の一人であり、本研究に関連する業績を持つライプツィヒ大学書籍研究所のジークフリート・ロカティス教授の下で、最新の研究動向を調査し、本研究の推進に役立つ様々な示唆を得た。また、以上の現地調査も踏まえて、本研究に不可欠な一次文献（主に前線書籍販売で刊行された図書）と二次文献を購入し、研究体制をより十分なものとした。これらの文献の調査・収集は、2018年度と2019年度にも、研究の進捗状況を見極めながら継続的に実施し、ある程度総括的・網羅的に研究を遂行し得る体制を整えることができた。

さらに、領域の異なる研究者からの意見も受けて、研究成果の意義を確認しつつ、広い視野から研究を遂行するため、国内学会、国際学会への参加も積極的に行い、計3回の口頭発表を行った。

## 4．研究成果

本研究の成果は、次の4点に集約される。

(1) 前線書籍販売の関連団体については、公的機関と民間の出版社に分けて研究を進め、前者については、前線書店センター、国防軍、および啓蒙宣伝省の活動を詳しく考察し、後者については、ベルテルスマン社をはじめとする主要10社について、公的機関との関係や、前線向けに刊行された図書シリーズについて概要を跡づけた。これにより、前線での書籍販売は主に前線書店センターが司り、国防軍の出版活動は軍の内部に限定されたこと、また民間の出版社は、主に国内の書店で販売され、野戦郵便によって無料で前線兵士に送付される「野戦版」と「野戦郵便版」の刊行に従事し、啓蒙宣伝省はこの活動を「野戦郵便特別行動」の実施などを通じて推奨した、といった構図を明らかにした。さらに、このようなドイツにおける前線書籍販売の関連団体

の活動をアメリカの事例と比較考察することによって、前者の特徴が自由な活動の余地を持つまとまりのなさであり、「独裁」や「統制」といった概念で特徴づけられるナチス・ドイツの一般的なイメージを覆すものであることを解明した。

(2) 前線書籍販売の実施状況については、販売形式と市場形態に分けて研究を進めた。前者については、前線書店センターによる移動販売と固定販売、および民間の出版社による「野戦版」と「野戦郵便版」の販売を中心に詳しく考察した。これにより、前線書籍販売において、ドイツ軍の進軍中や戦況が不安定な地域では移動販売が、比較的平穏な占領地域では固定した店舗による販売が重きをなしたことを明らかにするとともに、ドイツ本国からの本の配送システムや、戦況の悪化に伴って投入された女性店員の活躍なども詳しく跡づけた。また、民間の出版社の「野戦版」と「野戦郵便版」について、啓蒙宣伝省による「野戦郵便特別行動」の詳細を把握した上で、71の出版社のシリーズ名と刊行数を網羅的に把握した。さらに、これらの考察の過程で、前線兵士への本の供給には、ナチスの著作保護局によって組織された「ローゼンベルクの本の寄付」も大きな役割を果たしたことが明らかになったため、活動の経緯を明らかにした。

次に、前線書籍販売の市場形態については、第二次世界大戦勃発後のドイツの書籍販売に関するデータに基づいて、前線書籍販売がドイツ国内の書籍市場から切り離された、独立した市場であったことをおおまかに跡づけた上で、そのことを明らかにする典型的な事例として、ベルテルスマン社における売上と利益の上昇と、それとは対照的なドイツ国内における本の不足と書籍販売の縮小について詳しく明らかにした。とりわけ、「野戦版」・「野戦郵便版」の販売が民間の出版社に多大な利益獲得の道を拓いたことを具体的なデータに基づいて明らかにし、この点でも、一般に思想的・経済的「統制」として知られるナチス・ドイツのイメージとは異なる一面を浮き彫りにした。

(3) 前線書籍販売で販売された図書の内容的特色の把握にあたっては、まず、これまでに把握されている分類、著者名、タイトル、刊行年、および刊行数をまとめた包括的な「図書リスト」を作成した。リストの全体は分類表と一覧表から成るが、従来は個々のシリーズと作品に関する個別のデータしか存在しなかったのに対し、前線書籍販売の刊行物全体を一度に把握・考察し得る点で、大きな意義を有する。また、確認された刊行数の合計は39,696,600部であり、前線書籍販売のすべての刊行物をカバーしてはいないが、「野戦版」・「野戦郵便版」の7割が捉えられていることと、前線書店センターと国防軍の刊行物の大部分が含まれていることから、大まかな傾向を把握するには十分なものである。なお、タイトルの総数は延べ1047タイトル、そのうち著者名が確認されるものは917タイトル、確認された著者は531名である。

図書の内容的特色については、まず「野戦版」・「野戦郵便版」を対象として、予備的な考察を行った。具体的には、前線書籍販売での販売実績、啓蒙宣伝省によって作成された野戦郵便図書リスト、および各出版社のシリーズにおいて各作家が取り上げられた回数と各作家の総刊行数などに基づいて検討を進めた結果、前線兵士に販売された本には、娯楽文学だけでなく、古典的名作とナチス的な文学も同程度に含まれていることが明らかになった。

この結果を受けて、次に、上記の図書リストに基づいて、前線書籍販売全体について、各作家が取り上げられた回数と各作家の総刊行数を分析したところ、やはり販売された本には、娯楽文学、古典的名作、ナチス的な文学がほぼ同じ割合で含まれているとの結果が得られた。また、それに加えて、占領地域での軍務に不可欠な辞書や各地域の地理、歴史、文化に関する解説書も、前線書籍販売の刊行物の重要な一角を形成していたことも明らかにされた。

(4) 以上のような結果を踏まえて、前線書籍販売とナチスの文芸政策のかかわりに関する研究成果の総括を行った結果、主に次の3つの点が明らかになった。

第一に、関連団体や実施状況の分析を通じて、ナチス時代のドイツに、ナチス当局による「統制」が十分に機能しない領域が存在したことが明らかになった。ベルテルスマン社の事例に顕著に表れているように、第二次世界大戦勃発後、民間の出版社が自らの裁量で活発に活動を展開し、莫大な利益を得る可能性があったことをデータに基づいて示し得たことは、書籍販売という国民への思想的影響力が極めて強い分野にかかわる問題であるだけに、大きな意味を持つ。

第二に、前線書籍販売において娯楽文学が重要な地位を占めていることが改めて確認されたが、それと同時に、前線書籍販売で提供された本のほとんどが娯楽文学であるという見方は適当ではないということも明らかになった。とりわけ古典的名作が娯楽文学とナチス文学を凌ぐほど重要な地位を占めていたことは、従来ほとんど指摘されてこなかったという意味で、注目に値する。この点で特に印象深いのは、テオドーア・シュトルムをはじめとする詩的リアリズムの作家がきわめて高い受容をみていたことである。すなわち、戦闘の合間の兵士に最も必要とされたのは、単なる気晴らしの文学よりも、むしろ静かな内省へと誘うような文学であったと推察されるのである。

第三に、第二次世界大戦勃発後、ナチスの文芸政策は破綻していたと考えられる。ただし、その根拠は、従来指摘されてきた娯楽文学の著しい需要と供給よりもむしろ、ナチス的な文学が一定の割合を占めているとはいえ、その重要性がそれほど高く評価され得ないことに見いだされるべきである。また、最も刊行数の多い娯楽文学がナチスの中央出版社であるエーア社から刊行されたという矛盾に、ナチスの文芸政策本来の世界観的なあり方の後退が窺われることや、啓蒙

宣伝省によってナチズムに合致した娯楽文学の創出が企てられたことなども、併せて考慮されねばならないと思われる。

これらの研究成果は、第二次世界大戦下のドイツにおける前線書籍販売とナチスの文芸政策のかかわりに関する研究において、先駆的な意義を持つものである。

以上、(1)～(4)の成果を総合すると、本研究の主な研究課題はすべて網羅されたことになり、第二次世界大戦下のドイツにおける前線書籍販売とナチスの文芸政策のかかわりを、書籍研究に関する知見を生かし、書籍販売という観点を交えて研究することによって、ナチズムと文学のかかわりの解明に役立つ新たな研究モデルを提示するという本研究の目的はおおむね達成されたといえる。

なお、本研究の結果は、同じことがナチス時代全体にもある程度該当する可能性を示唆するが、もしそうだとすれば、ナチス時代の文学受容の実態は、これまで考えられてきたようなイデオロギー一辺倒のものではなかったことになる。その意味で、本研究の成果を応用・発展させ、ナチス時代全体を対象として真のベストセラーを選定・分類し、それらの作品を詳しく考察することによって、当時の文学空間の特性を再検討することが、今後の目標である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 竹岡 健一	4. 巻 55
2. 論文標題 第二次世界大戦下のドイツにおける「前線書籍販売」について 研究の意義と観点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 「かいるす」の会『かいるす』	6. 最初と最後の頁 56-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 竹岡 健一	4. 巻 32
2. 論文標題 前線書籍販売の関連団体について 公的機関と民間の出版業者	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 九州大学独文学会『九州ドイツ文学』	6. 最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 竹岡 健一	4. 巻 31
2. 論文標題 第二次世界大戦中のドイツにおける前線兵士への本の販売形式について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本独文学会西日本支部『西日本ドイツ文学』	6. 最初と最後の頁 15-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹岡 健一	4. 巻 57
2. 論文標題 第二次世界大戦中のドイツにおける前線書籍販売の市場形態について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 「かいるす」の会『かいるす』	6. 最初と最後の頁 34-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 竹岡 健一	4．巻 33
2．論文標題 第二次世界大戦中のドイツ軍兵士の読書について ナチスの文芸政策と娯楽的著作のかかわりに関する一考察	5．発行年 2019年
3．雑誌名 九州大学独文学会『九州ドイツ文学』	6．最初と最後の頁 59-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 竹岡 健一	4．巻 43
2．論文標題 前線書籍販売の刊行物一覧表 分類、著者名、タイトル、刊行年、刊行数	5．発行年 2020年
3．雑誌名 鹿児島大学言語文化論集『VERBA』	6．最初と最後の頁 67-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1．発表者名 竹岡 健一
2．発表標題 前線書籍販売の関連団体について
3．学会等名 日本独文学会西日本支部学会
4．発表年 2017年

1．発表者名 竹岡 健一
2．発表標題 第二次世界大戦中のドイツ軍兵士の読書について
3．学会等名 日本独文学会
4．発表年 2019年

1. 発表者名 Kenichi Takeoka
2. 発表標題 Ueber die inhaltlichen Charakteristika der Buecher im Frontbuchhandel
3. 学会等名 アジア・ゲルマニスト会議（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

竹岡研究室ホームページ <a href="http://ecowww.leh.kagoshima-u.ac.jp/staff/takeoka/">http://ecowww.leh.kagoshima-u.ac.jp/staff/takeoka/</a>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考